



新ましろ 未来計画 読本



益子町の経営計画 策定の趣旨

町では、まちづくりを進めるための計画として2006年11月には「ましこ再生計画」を、2011年3月には「ましこ未来計画」を策定し、効果的・効率的なまちづくりを推進してきました。

今回「益子町の経営計画」をつくるにあたり、私たちを取り巻く環境が20年後、30年後にどのようなのかという点について、地域懇談会などを通して、みなさんと共有することから始めました。わが国の産業や経済活動に転換を迫る「経済のグローバル化」、地球温暖化などすでに一国では解決できない複雑で多様な「地球環境問題」、経済社会や社会保障費に大きな影響を与える「人口問題」、歳出が税収などを上回り財政赤字が慢性化している「わが国の財政」、益子町にも多大な被害のあった東日本大震災や竜巻災害など自然災害に対する「安全・安心へのニーズ」など、目まぐるしく変化する社会・経済状況や多

様化・複雑化する町民ニーズに対応することが求められています。

また、今回2060年の益子町の将来人口を試算してみました。益子町に移り住む人より転出してしまふ人が多い「社会減」、死亡する人より生まれる人が少ない「自然減」や「少子化」が今後も続くと仮定した場合、2060年には、なんと1万2千人を割り込むという結果が出ました。

以上のような時代の潮流に的確に対応し、また人口減少時代に向けてその減少を少しでも緩やかにするため、地域懇談会や町民アンケート、町民の代表の方にご参画いただいた検討委員会、町議会などを通してご意見をいただき、今後優先的・重点的に実施する施策やその具体的な取組を「新ましこ未来計画」としてまとめました。そして、この計画や今後の取組により、2060年時点でも1万8千人の人口を有する益子町をめざします。

2060年の将来人口推計

11,681



2060年の将来人口目標

18,101

新ましこ未来計画

基本構想



この計画では、時代の潮流への対応や、将来の目標人口を1万8千人とした2060年に向けて、はじめの一步となる2016-2020年度の5カ年間の計画として、めざすべき「まちの将来像」と「計画の目的」を次のように考えています。

まちの将来像

幸せな共同体・ましこ

益子町で暮らす人、学ぶ人、働く人、訪れる人、そして子どもからお年寄りまで、力をひとつにする「共同体」として、いきいきとした毎日をおくる「幸せ」を感じる。それはちょうど、大家族“ましこ家”であるように。そのようなまちをみなさんと一緒にめざします。

計画の目的

「ましこならではの」 住みたい価値をつくる

益子町には、いろいろな特色があり、ほかの町とは違う優位性があります。この計画では、それらを発見し、いかしながら、益子町に住んでみたい、住んでよかった、ずっと住み続けたいという価値にみなさんと一緒につなげていきます。

そしてこの計画を達成し、まちの将来像の実現をするために、具体的な取組を5つの基本目標に分けて、推進していきます。

1. 幸せを感じる暮らしをつくる
2. 風土に根ざした産業をつくる
3. 社会的に自立した人を育てる
4. 地域資産を蓄積する
5. 健全な経営体を持続する

幸せを感じる暮らしをつくる

1

子育て世代から高齢の方までが、
安心して幸せに暮らせるまちに。

2014年に行った町民まちづくりアンケートの結果では、これからの益子町に必要な対策のうち、上位2つは「高齢者福祉対策」「子育て支援の充実」となりました。一方同じアンケートで、生活するうえでの大切な基礎となる「健康増進」に関連した日頃の運動習慣に関する質問については、「ほとんどしていない」と回答する人が約4割となっています。また私たちを取り巻く環境を大きな視野でとらえ、現在から将来を見つめたときに考えなければならないのが「環境問題」「人口問題」「安全・安心に関すること」であるのでは

ないでしょうか。これらはみなさんの暮らしにとって最も身近な問題であることから、みなさん一人一人が意識して一つずつでも行動していただければ必ず改善が図れるものばかりです。そして、それらの行動が暮らしへの潤いと安らぎを与えることとなり、結果として私たちのまちで暮らすことへの幸せにつながるのではないかと考えております。それぞれの暮らしでも町の仕組み作りにおいても、これらの課題に取り組みながら、幸せを感じる場面を、一緒に増やしていきましょう。



基本目標へ向けての提案

[私たちのまちに住みたい方をあたたかく迎えましょう]

「益子町に住みたい」という人がいても、これまではその希望に対応できるように情報やサービスを集約した窓口がありませんでした。そこで、益子町への移住や益子町で仕事を探したい人へのサポートを一括して行う「移住サポートセンター」を設置し、専門のスタッフが移住・就業のサポートをしていくようなしくみ作りを行います。



[地域ぐるみでの子育てを始めましょう]

子育て中のお母さん・お父さんの不安は様々です。町では、子育て応援手当の制度や子育て中の親が気軽に集まれる場所を整え、子育てしやすい環境をつくります。スクールガードを増やすなど、地域での見守り体制の充実も図ります。「益子町で子育てができて良かった」…そんなまちをめざします。



[健康なまち、日本一をめざしましょう]

益子町の健康指標の全国順位は、何と上から35番目。町では、運動を通じた健康づくりの更なる推進に加えて、どの家庭にもある健康になるご自慢のレシピの啓蒙や共有を図るなど、食事を通じた健康づくりの推進を通して、健康指標全国1位をめざします。



[美しい里山の風景を守りましょう]

益子町の自慢と言えば、「美しい里山の風景」と答える人が多いと思います。町では、里山の景観を守っていくための間伐や、その間伐材を有効に活用できるよう取り組んでいきます。またゴミの再資源化も引き続きご協力ください。100年後の益子町の自慢も、「美しい里山の風景」であるために。



[その他提案]

空き家バンク制度の新設 / ペレットストーブ・太陽熱温水器への補助 / 介護予防教室の充実 / 高齢者向けサロンの増設 / 自治会などの防災マニュアル策定の促進などを通して、「幸せを感じる暮らしをつくる」を実現していきます。

風土に根ざした産業をつくる

2

時代を見据えた産業と雇用の創出により、
町内総生産の向上をめざす。



2002年には740億円だった町内総生産は、大企業の撤退した2010年には410億円まで落ち込みましたが、2012年には522億円まで回復しています。また雇用の面では、2014年の益子町の有効求人倍率は0.44と低調ですが、2016年10月にオープン予定の道の駅が大きな効果をもたらすことが期待されます。農業・商工業（益子焼などの工芸も含む）における共通の課題として、従事者の高齢化や後継者不足が挙げられ、遊休農地や空き店舗のさらなる増加が予想されます。また、観光面では観光客の大半は日帰り

客であり、2012年の196万人から年々減少しています。人口減少・少子化・高齢化時代に直面し、自然の恵みをつくりだす農業、小さいながらも品質と誇りに満ち溢れた商工業、益子焼・伝統工芸・自然・文化財などの資源をいかした観光について、これら益子町の歴史的・地理的・地勢的な風土に根ざしてきたそれぞれの分野はもちろん、分野間の綿密な連携を図りながら課題を解決し、さらに活性化させるとともに新たな産業と雇用を創出し、町内総生産の向上を図っていきます。

基本目標へ向けての提案



[道の駅を有効に活用しましょう]

道の駅は大きな農産物直売所ではありません。道の駅を拠点に、農業と観光業の連携やインターネットによる販路拡大、益子産のそばや小麦を使った商品開発を行うなど、農業を成長産業にするための場、そして交流の拠点となることをめざします。人と人、人とモノ、モノとモノのつながりが、そこにあります。



[手仕事の温もりを感じましょう]

陶芸、木工、竹細工、染織など、益子町は身近なところにもものづくりの息吹を感じることができます。町では、手仕事人材バンクを創設し、益子町内外に紹介したり、ましこの工芸をいかした改修による空き店舗の利用を進めていきます。



[益子町の観光を一步前に進めましょう]

益子町は年間約200万人もの観光客が訪れる栃木県内でも屈指の観光地ですが、観光に対する取組は、関係者各々の考えのもと行われてきました。これからは先を見据えた観光戦略会議により、関係機関のみなさんと連携をしながら、一体感のある活動を行っていきます。

[益子町で働く幸せをつくりましょう]

益子町の有効求人倍率は0.44。単純に働きたい町民の半数以上が益子町外で働かなければならないという状況にあります。町では、就労支援と雇用の創出を図り、有効求人倍率をできるだけ1に近づけます。将来、安心して益子町で働ける環境をつくります。



[その他提案]

営農集団の育成・法人化の促進 / 地産地消の推進 / ものづくりの人材育成や研究開発 / 益子焼を使おう条例の制定 / 益子大使の委嘱 / 民間主導イベントの支援などを通して、「風土に根ざした産業をつくる」を実現していきます。

社会的に自立した人を育てる

3

時代をたくましく生き抜き、
益子町の未来を担う人財を育成する。

私たちのまちの未来を担うのは紛れもなく子どもたちです。また地域づくりの中心となるのは町民のみなさんです。町ではこのような人々を「財(たから)」として捉え、この計画では「人材」を「人財」と表現しました。私たちがこれからの時代をたくましく生き抜き、未来を切り開いていくためにも、一人一人が自ら学び、考え、問題を解決することが重要となります。その目標とする姿を「社会的に自立した人」としました。具体的には、“社会の中で自らの役割を果たしつつ、たくましく生き抜く勁(つよ)さを持ち、自分自身で喜びを感じ各分

野でいきいきと生活できる人”と定義づけしました。このような人財を育成するためには、知育・徳育・体育において幼少期からバランスの良い教育とともに、家庭での子育ても大きな影響を与えることから、親に対する支援も必要です。また持続可能な地域づくりを行うためには、ひとづくりが重要であり、そのための環境づくりも必要です。このように、「心の育成」「学びの充実」「体力づくり」「環境づくり」の取組を展開し、「益子町で子育て・教育をしてよかったと思う人」「地域・社会活動をする人」を増やしていきます。



基本目標へ向けての提案

[人を思いやるころを育みましょう]

「勁(つよ)い心」とは、柔らかだけれど強くしなやかに折れないような心のことを指します。町では「豊かな心 育成のまち宣言」を行ったり、教育機関などと連携し、益子町子どもたちを心身ともに健康で、つまずいても立ち直れる勁い心に育てます。益子町子どもたちは、人を思いやり尊重できる豊かな人間性をもった“人財”となることでしょう。



[学力の向上をめざしましょう]

文部科学省が実施する全国学力テストの都道府県別順位に益子町の中学3年生の成績を当てはめると、5位以内に相当します。これをさらに維持向上させるため、子どもの成長に合わせて脳を育てる「育脳プログラム」をつくり、周知・活用していきます。学力においても全国トップレベルを維持していきます。



[トップアスリートを育てましょう]

2020年東京オリンピックの開催が決定しました。町では、子どもからお年寄りまでの体操の習慣化や小中学校の体力・健康づくりの強化に努めるとともに、未来のトップアスリートの基礎をつくる教室や指導者育成教室を行います。もし、東京オリンピックに益子町出身の選手が出場したら、応援にも熱が入りますよね。



[地域を愛しましょう]

益子町内のことでも、自分の身の回り以外のことは案外知らなかったりするものです。益子町の自然・文化財・産業などから出題される「ましこ検定」の実施や「ましこ町民大学」の開校を通し、地域から学び、地域を愛し続ける人財を増やしていきます。今まで知らなかった新しい益子町を発見できるかもしれません。



[その他提案]

育児経験者の子育て支援教室の開催 / 英語教育の充実 / 職場体験の充実 / 自習室の開設 / 小中学校の運動用具の整備などの支援 / マスコット体操の考案 / 遊びの達人の遊びの伝授などを通して、「社会的に自立した人を育てる」を実現していきます。





地域資産を蓄積する

4

先人からの思いを受け継ぎ、
益子町の魅力を次世代に引き継ぐ。



益子町には7つの国指定重要文化財がありますが、みなさんをご存じですか。また、脈々と受け継がれてきた伝統文化、自然が織りなす風景、民藝運動の拠点の地であるなど、様々な地域資産や魅力があるにも関わらず、これらは全国はもとより益子町内での認知度はいまだ高いとは言えず、十分な活用が図れていません。加えて、50年後、100年後と益子町の未来を長期的に考えたとき、先人たちから引き継いできたものに加え、現在の私たちも次の世代に何かを残していくこととなります。この計画では、地域資産を「先人たちが

残してくれた自然や文化、伝統などといった有形無形のすでに認知されているものから、今後掘り起こしていくものと現代の私たちが次の世代に責任をもって新たに創り出していくもの」としました。また、先人たちが築いた地域資産に現代の私たちが創造したものを加えて活用することを「蓄積する」と表現しました。このように地域資産の活用や創造を行いながら、益子町内外への認知度向上に向けた取り組みを行い、「日本遺産登録」をめざしていきます。

国指定重要文化財 — 西明寺楼門 / 西明寺三重塔 / 西明寺本堂内厨子 / 地藏院本堂 / 綱神社本殿 / 綱神社摂社大倉神社本殿 / 円通寺表門

基本目標へ向けての提案

[身近なところから日本遺産登録をめざしましょう]

2015年から始まった、地域の歴史的魅力や特色を通じて文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定する「日本遺産」。益子町でもこの日本遺産登録をめざしたいと思います。登録に際して重要なのが、文化財とその周辺の環境整備やみなさんが楽しみながら文化財に触れていただくこと。日本遺産があるまちに住む。ちょっと素敵なことですね。



[地域の魅力を発信しましょう]

世界遺産、いえいえ「世間遺産」です。町では、生活に溶け込んでいる風土や風景、風習などの地域の魅力を世間遺産として認定し、他の地域の方たちに知ってもらえるよう進めていきます。もちろん、世界遺産も世間遺産も、そこに込められた人たちの思いは変わりません。



[ましこらしい景観をつくりましょう]

観光地で普段とは違うコンビニやお店の看板を見たことはありませんか。これはその地域の景観を損ねないよう看板などの規制を行っているからです。町でも、ましこらしい、長期的な景観づくりのために、景観条例の制定をめざします。みなさんもましこらしい景観づくりにご協力ください。



[益子町のブランドイメージをつくりましょう]

「ましこっばい」「ましこらしい」という言葉の捉え方は、一人一人違うと思います。益子町のブランドイメージの確立とは、益子町のイメージを形にし共有することからはじまります。そこから、ましこらしい書体やロゴマークにつながっていきます。益子町内だけでなく、日本中で認知される「益子町」をめざします。



[その他提案]

アカマツ復活プロジェクトの実施 / 地域の祭りや風習の記録・保存・発信 / 自然災害を考慮した安全・安心なまちづくりの推進 / 小貝川サイクリングロードの整備 / 地域資産の周辺整備などを通して、「地域資産を蓄積する」を実現していきます。

健全な経営体を持続する

町民主体のまちづくりと、
効果的・効率的な町政経営を持続する。

市町村の財政状況を明らかにするための指標として「健全化判断比率」というものがあります。この基準に照らすと現時点で益子町は「早期に健全化に取り組まなければならない基準」を大きく下回り、健全であると言えます。しかし、今後さらに進展する少子化・高齢化による労働人口の減少、税収減、福祉や介護などの社会保障費の増加、町民会館や道路などの公共施設老朽化による更新費用の増加、地域の人口減少により自治会で解決してきた地域の課題が解決できなくなるなど、少子化・高齢化に伴う様々な問題が今後顕在化してくることが予想されます。この

計画では、町民のみなさんと行政を一つの「経営体」として捉え、益子町全体、つまり行政体としての健全さと、地域の課題を地域で解決するという住民自治の健全さを持続していくという目標に向かい共に努力していくこととしました。また、「持続する」には少子化・高齢化などの社会的なマイナス要因を克服しながらも、現状よりさらにより状態をめざしていくことも含めています。このように、行政体としての健全さとともに住民自治の健全さを今後も持続していくための取組を展開して、大きい目標として収支のバランスのとれた経営を行っていきます。



基本目標へ向けての提案

[ふるさと納税を盛り上げましょう]

町では、2015年からふるさと納税の返礼品制度を本格的にはじめました。魅力的な返礼品がそろったので、期待以上の納税額になっています。みなさんの協力のもとさらに返礼品を充実させ、PRを活発にすることで、5年後までには1億円の納税額をめざします。また、ふるさと納税を通して、益子町を知ってもらえる機会にもなればと考えています。



[地域活性化の輪を広げましょう]

今みなさんの地域の課題になっていることは、他の地域でも同じように課題になっていることが多いようです。そうなればもちろん、その解決事例は他の地域の解決のヒントになることもあります。町では、「地域創生活動コンテスト」を実施し、地域の活性化や課題解決事例を募集し、紹介していきます。地域活性化の輪を町中に広げていきましょう。



[その他提案]

未利用町有地の有効活用 / 公金徴収一元化の検討 / 基金の確実かつ有利な運用の検討 / 今後の公共施設の在り方の検討 / 行政経営の効率化 / 専門性を有する人材の登用 / 社会起業家などの発掘・育成などを通して、「健全な経営体を持続する」を実現していきます。

おわりに

みなさんの手でつむぐ未来へ

「新ましこ未来計画」について、みなさんに身近な取組を中心にその概要をまとめました。「はじめに」でも触れましたが、人口減少・少子化の現状が続く場合、2060年には益子町の人口が1万2千人を割り込むことが予想されます。その危機意識をみなさんと共有するとともに、益子町で子どもを産み育てたい、益子町に住んで

みたい・住み続けたいという価値をみなさんとともにみつけ、いかしていき、そして、2060年には1万8千人の人口を維持していきたいと思えます。そのはじめの一歩が、「新ましこ未来計画」となります。できることから少しずつ取り組んでいただき、そして大きな潮流へとつなげていきましょう。

新ましこ 未来計画 読本



.....

この冊子は、2015年10月に策定した「新ましこ未来計画」の概要版になります。詳細版につきましては、役場・中央公民館などの公共施設、金融機関・病院などへ備え置くほか、益子町ホームページ上に掲載してありますので、どうぞご覧ください。

.....

5つの基本目標に対する詳細版の該当ページは次のとおりです。

1. 幸せを感じる暮らしをつくる P. 19 - 29
 2. 風土に根ざした産業をつくる P. 30 - 42
 3. 社会的に自立した人を育てる P. 44 - 53
 4. 地域資産を蓄積する P. 54 - 60
 5. 健全な経営体を持続する P. 61 - 68
-

新ましこ未来計画読本

2016年2月発行 / 発行：栃木県益子町 / 編集：益子町総務部企画課
〒321-4293 栃木県芳賀郡益子町大字益子2030番地
Tel.0285-72-8828 / Fax.0285-72-7601
<http://www.town.mashiko.tochigi.jp>

.....